



夕刊

中日新聞東海本社
浜松市東区葉新町45番地
〒439-8555 電話 053(421)7711

GLOBAL VIEWS

デスクの眼

中国の少数民族問題の中で、チベット族やウイグル族への弾圧が、国際的に注目されるのに比べて、モンゴル族に対する関心は格段に低い。ましてや文化大革命(一九六六―七六年)が、内モンゴル自治区から始まったことは、ほとんど知られていないだろう。

その実態は自治区出身で静岡大教授の楊海英(モンゴル名オノノス・チヨクト)さんの著書「墓碑なき草原」(岩波書店)が余すところなく伝えている。六〇年代の自治区の全人

忘れられた民族問題

口は千三百万人で、うちモンゴル族は百五十万人。二万七千九百人が殺害され、三十四万人余が逮捕された。これでも中国の資料に基づき、少なく見積もった数字だという。

なぜ文革は内モンゴルから始まったのか。「当時は中ソ論争の最中で、内モンゴルがソ連に味方する可能性を考えた共産党政権は、自治区内のエリートを肅清し、国土防衛を固めて中国全土の文革に乗り出した」と楊さんは指摘する。モンゴル族の中には、満州国時代に日本に協力した人もいたから、なおさら標的になった。つまり「民族分裂主義者」への見せしめである。

「内モンゴルの状況は百年前と同じ。民族革命は続いている」と楊さん。中国政府は「中華民族の偉大な復興」を掲げ「民族の団結」を強調するが、少数民族の権利を尊重せず団結を押しつけても、かえって彼らの離反を招くことにはならない。(浅井正智)